

1. 昨年度 授業改善推進プランについての検証

国語科	漢字練習の取り組みと継続した指導により、習った漢字を使って文章を書ける児童が増えた。読書に対する興味は、児童によって差が大きい。ブックトークやSSSを利用した読み聞かせなどにより、読書に関する興味・関心を高め、読書量を増やし、豊かな表現を味わわせ、想像力を育てていく必要がある。
社会科	複数の資料から情報を読み取り、自分の考えをまとめる指導を継続してきたが、まだ課題がある。調べたことを友達に発表する場面を設定することで、自分の考えを広げたり深めたりしていく必要がある。
算数科	知識・技能の習得では、児童によって差が大きいことが継続した課題である。まずは、計算や作図などの技能の習得を目指し、計算ドリルを計画的に取り組みせ、算数ステップ学習や算数クラブを活用して個別指導していく必要がある。
理科	予想や考察の場面で、理科学語を使って自分の言葉でまとめることができる児童が増えてきた。さらに、理科学語の確実な定着を目指し、特にB区分の学習では説明活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力の向上を図っていく必要がある。
体育科	安全面の課題については、粘り強く指導を重ね、指示が通るようになってきた。1学級1実践を継続して取り組み、握力や跳躍力に改善が見られた。今後も安全面と体力テストの結果に対する課題に継続して取り組む必要がある。
音楽科	歌唱は全体的には生き生きとした声で歌うことができる。器楽では、合奏では色々な楽器で音を合わせることに興味を持って活動している。リコーダーでは運指にとまどう児童がみられる。
図画工作科	活動に意欲的に取り組んでいるが、豊かに発想することに課題がある児童がいる。鑑賞活動を通して多くの作品に触れさせることで、表現の豊かさや自由さに気付かせ、その良さを子ども自身の作品に生かせるようにする。
家庭科	家庭にも協力を呼びかけ、授業で実践したことを家庭でも取り組む活動を重ねてきた。しかし、日常的な生活の中には浸透しづらく、児童によって生活経験の差が大きい。特に、クッキングやソーイングでは技能面に大きな差が見られる。

2. 学力に関する調査結果の総括（大田区学習効果測定の結果に対する考察） ※全体の傾向

国語科	目標値より ↑	<ul style="list-style-type: none"> ☆ ほぼ全ての内容で目標値を上回っている。 ☆ 「物語の内容を読み取る」では、目標値を10ポイント以上上回っている。 ☆ 「漢字を書く」では、目標値を15ポイント以上上回っている。 ・ 「話し合いをもとに活動報告を書き直す」では、目標値を下回っている。自分の立場や意図をはっきりさせながら、自分の考えを話し言葉で記述することや修正することに課題がある。
社会科	目標値より ↑	<ul style="list-style-type: none"> ☆ ほぼ全ての内容で目標値を上回っている。 ☆ 「日本の国土と人々の暮らし」「世界の中の国土」では、目標値を10ポイント以上上回っている。 ・ 「工業生産と工業地域」では、目標値と同じである。 ・ 「日本の農業」では、年間を通した米作りの農作業の行程や使用される機械についての知識・理解に課題がある。
算数科	目標値より ↑	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 全ての内容で目標値を上回っている。 ☆ 「分数と小数」「分数の計算」「単位量当たりの大きさ」では、目標値を10ポイント以上上回っている。 ・ 「合同・立体」では、展開図や見取り図をもとに対応する辺や角度を求める問題が課題である。 ・ 「整数のなかま分け」では、最大公約数について理解し、それを求める計算が課題である。
理科	目標値より ↑	<ul style="list-style-type: none"> ☆ ほぼ全ての内容で目標値を上回っている。 ☆ 「人のたんじょう」では、目標値を15ポイント以上上回っている。 ・ 「流れる水のはたらき」では、目標値を下回っている。川の写真から、川の流れている場所を指摘したり、複数の人の考えのうち、正しくないものを指摘する問題に課題がある。

3. 平成30年度 授業改善推進プラン

国語科

関心・意欲・態度	課題	読書量が少なく、すすんで多くの本（特に、小説）を読もうとする態度が身に付いていない児童がいる。
	重点	朝読書やSSSの読み聞かせやブックトークの内容を充実させ、様々な本との出会いの機会を増やす。作品の良さを伝え合う場面を設定することで、読書量を増やし、豊かな表現を味わわせ、想像力を育てていく。
話すこと 聞くこと	課題	話し手の意図を捉えながら聞いたり、目的や意図に応じて話し方や場に応じた適切な言葉遣いや必要なキーワードを使って話す力が十分に定着していない児童がいる。
	重点	まず自分の考えを主体的にもつことができるよう時間を確保し、十分でない児童には個別に指導を重ねる。次に、自分の考えを基に、友達と交流することで対話的な学習になるよう授業改善を図る。
書くこと	課題	「話し合いの内容を聞き取る」では、記述式の解答で目標値を下回っている。自分の立場や意図をはっきりさせながら、自分の考えを話し言葉で記述することに課題がある。
	重点	読書量を増やして想像力を高め、毎日辞書を開く中で語彙を増やすことで、作文を書く際の耕しを行う。また「書くって楽しいね」を計画的に活用して、事実と感想・意見を区別して書けるよう指導する。書いた作品は推敲、指導し、互いに作品を交流する場面を設け、豊かな表現の仕方を紹介し合う時間も確保する。話し言葉と書き言葉の違いについても、改めて押さえる。合わせて、習った漢字は使うように継続指導する。
読むこと	課題	物語文では文章中のキーワードや情景描写に着目し、人物の心情や場面についての描写を読み取る力に課題がある。
	重点	キーワードを探したり、情景が人物の心情を表しているところを探したりして主題を押さえる活動を取り入れ、文章に書かれていることを基に想像して、内容や構成を読み取る指導を継続して行う。
言語に関する 知識・理解	課題	既習漢字を正しく読んだり書いたりすることが十分に定着していない児童がいる。また、主語と述語の関係や修飾語、指示語に関する理解が十分でない児童もいる。
	重点	1日1文字の漢字学習を継続し、毎日辞書を開く学習習慣をつくり、語彙を増やす指導を行っていく。また、主語や述語、修飾語を使ったり、接続語や指示語を適切に用いたりするなどして短文を書く練習を取り入れる。定着が十分でない児童には、大田区漢字検定や漢字50問テストに向け、練習計画を立て、丸付けや間違い直しなどを個別に指導する。

社会科

関心・意欲・態度	課題	日本の歴史に興味はもっているが、自分からすすんで調べたり、話し合おうとすることに意欲をもてていない児童がいる。
	重点	自分のこととして課題に取り組めるよう、資料の提示方法や発問を工夫し、自分の考えをもてるまで指導するようにする。特に、調べ方が分からない児童には個別に指導する。
社会的な 思考・判断	課題	身に付いた知識や資料から読み取ったことなどを、自分の言葉で表現することが苦手な児童がいる。
	重点	複数の資料を関連付けて読み取り、自分の意見をもたせる。さらに、友達と自分の意見を交換する場面を繰り返し計画的に設定することで、自分の考えを深めさせるようにする。社会科見学の後のまとめ（新聞）を行うときには、分かった事実と自分の考察を分けて考えさせ、まとめさせるようにする。特に、必要な用語が分からない児童には個別に指導する。
資料活用 の技能	課題	複数のグラフや写真などの資料から事象を読み取る力が弱いのは継続した課題である。
	重点	地図や年表、グラフ、写真などの意味や価値について説明を行う。複数の資料をどのように読み取るかを指導する時間を確保し、自分なりの視点をもって調べることができるようにする。読み取ったことを活用する場面を設定することで、社会的事象を多面的に明らかにできるようにする。
社会事象 の理解	課題	用語や固有名詞についての理解が不十分な児童がいる。
	重点	年表や統計資料などによる体験・作業活動を多く取り入れ、用語や固有名詞を覚える活動だけでなく調べることによって定着することができるような指導をする。また、調べたことを活用したり発表したりする場面を設定し、理解の定着を図る。

算数科

関心・意欲・態度	課題	意欲的に授業に参加している児童が多いが、苦手意識をもっている児童もいる。
	重点	算数を日常の事象と結び付ける活動やものづくりをする活動、実際の数や量を確かめたりするなどの体験的な活動を積極的に取り入れる。既習事項の振り返りを十分に行い、自信をもって取り組むことができるよう授業展開を工夫する。
算数的な思考・判断	課題	文章題の内容を理解し、立式することが難しい児童がいる。式や文章の意味を説明する力が十分に身に付いていない児童がいる。
	重点	文章題から数直線、面積や図などに表す活動を継続し、基準量と比較量を意識させる。根拠をもって立式を行い、考える習慣を身に付けさせる。友達に説明をしたり、友達の説明を聞いたりする時間を確保する。
算数的な技能	課題	計算処理や作図の技能は少しずつ身に付いているが、定着するのに時間がかかる児童がいる。
	重点	定着するのに時間を要する児童には、練習量を確保しながら内容を厳選し、確実にできるようにする。計算ドリルを計画的に行うことができるよう進捗状況を把握し、個別指導する。ステップ学習や算数クラブも活用し、計画的に補習を行う。
知識・理解	課題	問題と式、式と図、計算の処理と意味、公式と意味などを関連させて理解できていない児童がいる。
	重点	言葉、数、式、図、数直線が表すことと具体物とを関連付けて指導し、学習の基礎・基本の定着を図る。可能な内容であれば具体物を作成して確かめ、量感を意識させる場面を、授業の中で意図的に取り入れる。

理科

関心・意欲・態度	課題	問題解決の流れを理解して、見通しをもって学習に向かうことができてきた一方、挙手をして発表する児童に偏りがある。
	重点	話し合い活動の充実を図り、少人数での意見交換の場を設けたり、挙手のさせ方を工夫したりして、自信をもって発言できるよう授業展開を工夫し、クラス全員での問題解決を目指していく。
科学的な思考・表現	課題	条件制御を意識して実験を行うことはできてきたが、量的変化や時間的変化について考察して表現することが苦手な児童がいる。
	重点	考察の場面では、結果を基に考察をさせ、自分の考察と友達の考察を互いに見合う交流の時間を確保する。また、B区分「生命・地球」分野については、自分の考えを発表したり、質問に答えたりするようにするような対話的な学習を取り入れることで、自らの思考力・判断力・表現力を育むようにする。
科学的な技能	課題	実験器具の使い方を友達に任せてしまっていたり、実験・観察の技能が定着しなかったりする児童がいる。
	重点	必要な実験器具を用意し、ペアやグループなどできるだけ少人数で実験や観察をすることができるようにする。また、実験器具の安全な使い方を指導し、不十分なところは教え合い、後片付けまで全員が参加できるようにする。
知識・理解	課題	特にB区分「生命・地球」の単元では、知識や理科学用語の定着に課題のある児童がいる。
	重点	図書資料や映像資料を活用し、内容の理解をした確認した後、学んだことを発表したり質問に答えたりする場面を設定する。相手に繰り返し発表したり質問に答えたりする対話的な学習を通して、理科学用語の確実な定着を図る。

体育科

関心・意欲・態度	課題	日常的な運動経験が不足し、自分の体の動きを自分でコントロールできない児童がいる。
	重点	授業中には、さまざまな運動を経験をさせ、自分の体の動きをコントロールすることのよさに気付かせる。特に体を動かすことが苦手な児童には、休み時間にも主体的に体を動かすように促す。
運動に対する思考・判断	課題	運動の特性を理解し、体の動かし方や練習の方法を考えたり、工夫したりして運動に取り組む力がまだ不足している児童がいる。
	重点	学習カードを活用し、自分の目標をもたせ、達成できたかを振り返らせる場面を設定する。学習カードにはコメントを書いて児童の振り返りを価値付け、次への目的意識をもたせる。
運動における技能	課題	体力テストの結果から、特に握力と跳躍力の必要な運動に課題がある。
	重点	1学級1実践の活動を継続し、日常的な場面において握力や跳躍力の向上を図る。
安全・健康に対する知識・理解	課題	安全や健康についての基本的な知識の理解が不十分な児童がいる。
	重点	できるだけ実生活の中の具体的な場面を例示し自分でも想像させることで、自分事として捉えさえ、知識が定着するようにする。

音楽科

関心・意欲・態度	課題	リコーダーでは運指にとまどう児童がみられる。全体的には生き生きとした声で歌うことができるが、弱々しくなってしまう児童もいる。
	重点	曲のワンフレーズを取り出した声の響かせ方やことばの言い方などの発声練習を常時取り入れていく。卒業行事での発表という目標をもち、意欲的に取り組めるようにしていく。
表現の創意工夫	課題	生き生きとした歌声が豊かな曲想表現に生かされていないときがある。
	重点	歌詞の内容を手掛かりにしたワークシートを作成し、各自で曲想表現を考えさせたり互いの考えを交流し合ったりさせる。
表現の技能	課題	歌声が弱々しくなってしまう児童がいる。リコーダーでは、個別指導が必要な児童もみられる。
	重点	曲の中の一部を取り出し発声練習にするなど、無理のなく日常的に発声のポイントを指導していく。器楽では運指表を提示したり、予め準備練習の中で難しい運指の練習を行ったりする。
鑑賞の能力	課題	強弱や速さ・音色など明確に聞き取りやすい要素については理解しながら聴くことができるが、旋律の特徴や楽曲の構成・変化といった要素になると聴き取りに個人差がある。
	重点	表現と鑑賞を関連させ、どちらも同じ要素をもった曲を相互に関連させながら学習していくようにする。また、聴くときのめあてを明確に伝え、めあてに即したワークシートを作成し、感想を言語化しやすいようにしていく。

図画工作科

造形への 関心・意欲・ 態度	課題	意欲的に活動する気持ちはあるが、見通しがもてなかったり、表したいことを思いつけなかったりすることで学習に対する意欲が低下してしまう児童がいる。
	重点	題材の初めに、題材計画などを説明して見通しを持たせる。個別指導する中で、思いついたことを表せるようにし、意欲を継続しながら活動できるようにする。
発想や構想の 能力	課題	豊かに発想をすることが難しい児童もいる。
	重点	製作の途中に友達の作品を観る機会をつくり、様々な表現に気付かせる。教師や友達と話し合いながら、発想・構想できるようにする。
創造的な技能	課題	材料や用具の使い方が定着していない児童がいることが課題である。
	重点	材料や用具の使い方をポイントにまとめて指導する。また、年間を通して繰り返し使えるような場面を設定する。
鑑賞の能力	課題	友達の作品の良いところなどを見付けられるが、それを自分の作品に生かしていくことが難しい児童がいる。
	重点	活動の途中での鑑賞の機会を増やし、気付いた友達の作品の工夫を自分の作品にも生かせるようにする。友達の工夫を、お互いの作品や活動に取り入れて、高め合いながら活動していけるように指導する。

家庭科

関心・意欲・ 態度	課題	クッキングやソーイングに関心のある児童が多い反面、家庭でのお手伝いなど生活経験が少ない児童がいる。
	重点	学習したことに基づいて各自に課題を用意し、スモールステップで提示したり、実際に体験させたりすることで、児童が主体的に活動できるようにする。また、日常的に家庭でお手伝いをすることができるよう家庭へ協力を依頼し、授業で学んだことを家庭でも継続して実践できるよう、様々な経験を増やすことができるようにする。
日常生活の 思考・判断	課題	日常生活に当てはめて考えたり、自分の生活に生かし工夫しようとしたりする児童がまだ少ない。
	重点	生活体験とつなげて考えられるような場を設定し、具体的な取り組み方を提示する。また、児童の生活で活用・工夫できた例を挙げ、自らの生活に生かせるようにする。
日常生活の 表現・技能	課題	衣食住の生活経験の豊富な児童と乏しい児童との差があり、経験のある児童に頼りがちな傾向がある。
	重点	クッキングでは、グループ内の分担や作業の手順を明示し、どの児童も見通しをもち、いろいろな作業に関わることができるよう配慮する。
知識・理解	課題	新しい学習内容を理解できる児童が多いが定着しにくい。
	重点	基礎的な知識についてはキーワードで提示したり、実際に実物や写真、動きを見せたりしてイメージさせ理解できるようにする。できるだけ具体的な体験を通して、知識・理解の定着を図ることができるようにする。